

## 薬経連・山村会長 コストに見合う分業効果「患者が感じていない」

団体・学会 [ 2月16日 10:24 ]

保険薬局経営者連合会（薬経連）の山村真一会長は15日、東京都内で開いたフォーラムで、医薬分業に対する批判が相次いでいることについて、「分業の効果に疑問符が付けられている。薬局のフィーが見合っているかが問われている」と述べ、コストに見合った分業のメリットを患者が感じていないのではないかとの認識を示した。



山村会長は、政府の規制改革会議が3月12日に開催する公開討論で「医薬分業における規制の見直し」がテーマとして取り上げられることについて、日本薬剤師会の石井甲一副会長が定例会見で、「分業はこういうものだという披露できる良い機会」とコメントしたことに関し、「副会長としてはまっとうなコメントだが、（実際に分業の効果を示す）裏付けがあるの

か」と疑問視した。

**【写真】分業効果の裏付けについて懐疑的な見方を示す山村会長**

その上で、厚生労働省医薬食品局総務課医薬情報室の田宮憲一室長が昨年8月に日本学術会議と日本薬学会が開いたシンポジウムで、分業批判について「一部には分業のメリットを普及啓発していないから、分かってもらえないという人もいるが、患者や住民が実際にメリットを実感できるようにしなければならない」と発言したことを引用。

「（田宮室長の指摘のように）患者にメリットを感じてもらうのが大事だが、これが足りていない」と指摘した。

### ●国民の要求に応え、セルフM推進を

さらに日本医師会が薬局・薬剤師を活用した健康情報拠点事業に対し、批判的な発言をしていることにも言及。「医師会の立場としては、薬剤師は（薬物治療という）限定した業務に専念しろというのはよく分かるが、国や国民の要求は違う。（薬剤師に）もっと広い業務をやってくれというのが今の時代だ」と述べ、国民の要求に応え、セルフ Medikation を推進していく必要性を指摘した。